

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【自然科学系】

テスト、レポートの成績をもとに総合的に成績をつけた。(講義・演習について)

試験と授業への参加態度

地学 I
原則として、出席と試験
大気・水圏科学演習
出席とレポート

期末試験が評価の主たる材料であるが、その他、出席、受講態度等を加味し総合的に評価している。試験の採点においては、答えの正否のみならず、論述内容に重点を置いて評価している。
評価基準はおおむね以下の通りである。
・論述は不十分であるが、基礎問題が来ている場合は「C」、これにも満たない場合は「D」、
・講義で説明した基礎事項の理解度に加え、論述の質により「A」または「B」を判断、
・基礎から発展に至るまで十分な論述内容を伴っている場合は「S」としている。
なお、試験の点数がボーダーライン上にある場合は、欠席回数や受講態度を考慮し最終評価としている。

①では、LTD8回分の予習ノート、振り返りの提出状況などふだんの取り組みと、2回のレポート課題から評価をした。
②では、授業中のワークシートや問いに対する提出状況、毎回の振り返りの提出と相互評価の実施と、期末テスト(記述式4問)から評価した。
全て学生には、評価する内容は事前に連絡している。

出席と試験を総合して成績を出した。
実験はレポートを成績に反映させた。

期末テストの結果に、出席テストの結果を加味して判定した。

実験ごとにレポートを課し、レポートの内容に基づいて成績評価を行った。

複数の課題を出し、その評価を積算して、多面的に評価を出している。出した課題が(教員が想定しないところで)難しかった可能性を考慮し、積算した結果を見てから、最終的な素点(0~100点)を決めている。

複数回のレポート課題と最終試験の結果を数値化した。

演習プリント40%+定期試験60%で機械的に計算するようにしている。

【S 地学実験】出席を前提として、レポート内容と確認試験の両方をもとに成績を算出した。
【S 地質学実験】出席を前提として、レポート内容と確認試験の両方をもとに成績を算出した。

【4423511Si初等情報教育】

前半の指導案作成は、5回のステップに分けて作成している。毎回の提出と相互評価の点を40%。また、確認テストを3回行ったため、それを20%。授業への参加態度を15%、最後の模擬授業をペアの点数として20%、最終レポートを5%とした。

【2421141Si情報デザイン】

1回目の個人課題が約30%、2回目のグループ課題が約35%、3回目の個人課題が約35%で評価した。

出席状況、レポートの提出、試験内容の理解等を総合的に評価した。

取り組み態度(発表数)と毎回の小テストを組み合わせ、妥当だと思われる点数変換を行って成績をつけた。

テストの成績に、授業への参加姿勢(演習問題を黒板で発表、先生の質問に対する発言、疑問に対する質問など)、レポート提出の有無を加味した成績。

また、テストの成績について、テスト内容はガイダンスの時にこの授業で中心的に学ぶことを5つ挙げておき、その内容を問い、理解していることを基準として減点法により成績を付けた。

学業成績は定期試験の点数が大きな割合を占めている。その他、課題の提出も考慮している。

応用数学Aだけは、3回のレポートで評価した。レポートにおいては、数学的な正しさに加えて、どれほど深く考えることが出来たかを重視した。

およそ試験75%、課題提出25%に基づいて総合的に評価した。

個々の理解度が反映されるような問の解答成績による。

試験の成績(100%)

期末試験の点数により評価、答案に成績を付けて返却

999, $D < 40 \leq C < 50 \leq B < 60 \leq A < 80 \leq S$ で採点, 999, $D < 60 \leq C < 70 \leq B < 80 \leq A < 90 \leq S$ に換算.

有機化学A: 999_2, D_6, C_8, B_8, A_5, S_0